



## 貧困解消の政策を求めて



アリゾナ州立大学助教授 田中 知美

身に余る受賞に驚きつつとも感謝している。貧困層の経済行動を理解し貧困問題解決のための有効な政策をデザインするために、行動経済学・実験経済学をどう役立てることができるかを模索してきたことを評価していただいたのかと思う。

世界銀行で途上国援助の現場を経験した時、貧困解消の政策をデザインするためには、まず彼らの行動や選好を理解する必要があると強く感じた。2010年に *American Economic Review* に発表した論文『*Risk and Time Preferences: Linking Experimental and Household Survey Data from Vietnam*』では、経済学実験という手法を用いて、ベトナムの人々のリスクへの態度と時間割引率を測定した。リスクへの態度と時間割引率は選好の中でも特に富の蓄積に大きく関係があると考えられてきたが、それらの選好と貧困の間に実際に関係があるのかを貧困層を対象とした研究で明らかにした論文はまだ少なかった。また行動経済学では「プロスペクト理論」や「時間不整合 (time inconsistency)」などの理論モデルが提示され、人々の選好をより現実的に把握する試みがすすんでいたが、途上国の人々を対象とした研究でそれらのモデルを検証した論文はまだなかった。本論文は、一般的なリスク回避志向 (risk aversion) と損失回避志向 (loss aversion) を区別して議論する必要があること、そして、損失回避志向と時間割引率は経済環境に大きく規定されることを示した。

その後は、政策をデザインしてテストするという政策実験に取り組んでいる。アリゾナのホームレスシェルターでは貯蓄コンテストを行った。100ドルの賞金を目指してホームレスの人々が貯蓄率を競い、優勝者は2カ月で2200ドルの貯蓄に成功した。この研究では、正しい経済的インセンティブを与えれば貧困層の人々も貯蓄できることを示した。最近、バングラデシュのマイクロファイナンスと協力し、縫製工場の女性労働者を対象に貯蓄プログラムをデザインしている。この賞の榮譽に恥じないように、今後も貧困解消に有効な政策研究を続けていきたい。

たなか ともみ

93年九州大卒。95年同大大学院農学研究科修士課程修了。98年同大大学院農学研究科博士課程単位取得退学。04年ハワイ大 Ph.D. (経済学) 取得。世界銀行インターン、同コンサルタントなどを経て、07年からアリゾナ州立大助教授。主な論文に『*Risk and Time Preferences: Linking Experimental and Household Survey Data from Vietnam*』(共著、*the American Economic Review*) など。69年長崎県生まれ。